

ごあいさつ



札幌市農業協同組合
代表理事組合長

藤田 範彦

日頃、みなさまには格別のご愛顧をいただき厚くお礼申し上げます。

J Aさっぽろは積極的な情報開示を通じて経営の透明性を高め、当J Aに対するご理解を一層深めていただくために、平成27年度の事業内容に関するディスクロージャー誌『2016年J Aさっぽろディスクロージャー』を発行いたしました。みなさまが取引金融機関を選択する際の判断材料として、また、当J Aの地域貢献活動への取り組み、業績の推移などをご理解いただくための一助として、ご一読いただければ幸いです。

●J Aを取り巻く情勢

昨年の日本経済は、個人消費の持ち直しが思うように進まず、加えて、中国経済の減速などを背景に輸出が低迷し、企業の生産活動や設備投資の下押し圧力となりましたが、在庫調整の進捗や欧米向けの自動車輸出などを支えに、景気はもたつきからの脱却をうかがう状態となりました。

政府・日銀は2%の物価安定目標の実現をめざし、各種政策を導入しておりますが、海外経済に対する懸念が払拭できない状況もあり、実体経済や物価面への波及は不透明感が続くと思われております。

北海道経済においては、公共投資が減少したものの、昨年度にみられた駆け込み需要の反動は収まりました。さらに、雇用・所得情勢の改善などを背景に個人消費が底堅く推移し、また、海外からの観光客の増勢持続も道内経済にプラスとなり、穏やかな持ち直し基調で推移いたしました。

J Aを取り巻く情勢では、TPPの大筋合意や改正農協法の成立など、課題が山積しており、特にTPPは農林水産物全体の8割が即時撤廃、あるいは段階的関税撤廃の対象となり、聖域とされた重要5品目についても3割が関税撤廃の対象となるなど、かつてない農畜産物市場の開放を前進させる結果となりました。

●J Aの事業実績

春先の融雪は例年より早くすすみ、農作業も比較的順調に行われました。育成期の気温低下、収穫時期の降雨、突発的な暴風雨などの天候不順もありましたが、総じて豊作の年となりました。玉葱の価格は低迷いたしました。営農販売事業は前年度並みの結果となりました。一方、購買事業は、生産資材などの取扱高が伸び悩み厳しい結果となりました。そうしたなか、信用・共済・相談事業などで計画を達成し、4億5,441万円の事業利益を確保することができました。

●みなさまへのメッセージ

今後私どもは、「J Aグループ北海道改革プラン -実行計画指針-」を念頭に策定した、新しい中期3ヶ年経営計画を着実に実践し、組合員の所得向上、地域における役割の発揮、安定した経営基盤の確立に取り組み、組合員のみなさまの暮らしを守り、地域社会への貢献と共生による「信頼されるJ A」の実現に向け、役職員一丸となり農協運営に総力を傾注してまいります。

本年度も、組合員のみなさまには、なお一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年7月